# あすびと福島

## ～福島の未来をつくる

# 続け「憧れの連鎖」

2023年度ジャーナリストスクール第6班
あすびと福島取材班

## 復興後押し、つくる人材

私たちジャーナリストスクール取材班は8月3日、人材育成に取り組む一般社団法人「あすびと福島」を取材した。福島の復興に貢献する人材が育ってほしいと願い、小中学生に再生可能エネルギーなどの未来志向の体験学習を提供している。高校生や大学生、一般企業と世代に応じたさまざまなプログラムも展開している。取材に応じたあすびと福島次世代育成チーム長の沖沢真理子さんは「福島を元気にしてくれる人が出てきてほしい」と語った。

水素エネルギーで動く水素カーの説明を受ける小中学生の取材班

あすびと福島は、2013年に南相馬市で業務をスタートした。設立者の半谷栄寿代表は南相馬市出身。2010年まで東京電力の執行役員を務めた。

法人設立者の半谷代表

福島第1原発事故後、半谷代表は支援物資を南相馬市に届ける活動をしていた。親しくなった菓子店の女性に「地元の子どもたちのためになる仕組みをつくってほしい」と言われ、「残っている子どもたちのために何ができるか」と考え、体験を通した人材育成を始めた。元東電社員としてのつぐないの気持ちもあった。13年に南相馬ソーラー・アグリパーク（現あすびとパーク）をつくり活動を始めた。

敷地内のコンセントのオブジェ。電気のその先を考える

スタッフは7人。代表と従業員4人、そして企業研修で縁ができた、JTBや住友商事などから派遣されている。業務を継続する上で「志はソーシャル　仕組みはビジネス」を掲げている。

活動内容は、ドローンや水素カーなど再生可能エネルギーの体験学習、高校生による取材や情報発信を通して人材育成を行っている。体験学習などの費用は、全額あすびと福島が負担している。（庄條のり、本田樹）

### 「あすびと」に込めた思い

「あすびと」にはあすをつくる人を育てたいという思いが込められている。

## 子どもたちに、どんどん経験を

### あすびと福島 次世代育成チーム長 沖沢真理子さん

「目の前のことを精一杯やると後悔しない。感謝を伝えると人間関係が潤う」と沖沢さん

次世代育成チーム長として働く沖沢真理子さんに、活動の目的や思いについて、インタビューした。

**Q　どのような思いで人材育成しているか？**

A　子どもの学び場は、学校の勉強以外にも必要です。だから、ここでたくさんの人にいろいろな経験をしてほしいです。そして、活動に参加した方々の中から、福島の復興を手伝いたいという人が生まれてほしいと思います。そんな人たちが後輩の憧れになって、「憧れの連鎖」が続くことを期待しています。

**Q　活動を続ける中で、一番達成感のある時は？**

A　「また来たい」「この地域（浜通り）って面白い」と言ってもらえたときです。今後は、活動を県内外にも、将来的には海外へも広げていきたいです。

**Q　今後の課題は？**

A　まだ、若い人には「あすびと福島」という名前があまり伝わっていません。そのため、これからは、若い人にも知ってもらい、人材育成の活動を広げていきたいです。スタッフが7人と少人数なので、大人数の団体を受け入れられない点も課題です。スタッフを増やし、研修団体を受け入れるためには工夫が必要になります。よりよい体験の場を展開して多くの人に知ってもらえる機会を得ていきたいです。（戸澤祥、佐藤瑶樹）

### 高校生、福島の人々取材

あすびと福島の高校生研修は伴走型の支援。高校生は「高校生が伝えるふくしま人物語」に主体的に取り組んでいる。もう一つは「高校生発ロールモデル」。身近なすごい人を取材し、地域の魅力に気付いた。同法人のロゴは「志」をデザイン化した。高校生は「志」の意味を考え、高め合っている。（渡邉盛嗣）

高校生が作成した冊子

## 編集後記

あすびと福島の施設「あすびとパーク」には大学の階段式教室のような場所がある。ここには半谷代表の「小中学生に大学の雰囲気を体験してもらいたい」という思いが込められている。新たな経験をし、学ぼうとする学生にとことん伴走する姿に強く胸を打たれた。中には「今回の活動は僕の未来の教科書になった」と述べた学生もいたそうだ。活動を通じ、そんな学生が増えることが沖沢さんの語る「福島を元気にする人が増えてほしい」という願いの達成に繋がるだろう。あすびと福島はこれからも、学生の将来の選択肢をより広げる環境づくりを行い、復興の歩みを後押ししていく。（庄條のり）

### 私たちが作りました

庄條のり（会津学鳳中3年）本田樹（岩瀬中1年）戸澤祥（小田倉小6年）佐藤瑶樹（福大付小5年）渡邉盛嗣（石川小5年）